

- ◆ 4月5日(NY現地時間)、国連安保理北朝鮮制裁委員会専門家パネルによる2022最終報告書が公表された。
- ◆ 制裁違反・回避が疑われる事例及び北朝鮮による制裁回避の詳細な手法を分析・報告。北朝鮮による**①核・弾道ミサイル計画の継続、②石炭輸出及び石油精製品輸入の継続、③制裁違反・回避活動に対する中国企業等の強い関与の疑い**等が明らかにされている。

報告書のポイント

(1)核・弾道ミサイル関連活動

- 北朝鮮は核燃料物質の製造活動や寧辺の施設における修復・建設活動を継続。豊溪里核実験場では活動が継続中なるも、核実験は報告されていない。**同実験場の第3坑道周辺に大きな変化はなく、第4坑道入口における新たな掘削活動は観察されていない。**
- 弾道ミサイル計画関連活動は引き続き劇的に加速。北朝鮮は、核兵器運搬システムの戦略的、戦術的な信用性、補完性、即応性を誇示。**2022年には、弾道ミサイル及び弾道・誘導技術を組み合わせたミサイルを少なくとも73発発射。**

(2)海洋関連措置

- 2022年10月、52の加盟国が石油精製品の供給量に関する報告書を制裁委員会に提出し、**2022年1月から8月の間に北朝鮮籍タンカーが79万2383バレルに及ぶ石油精製品を北朝鮮に輸送した可能性がある**と推計(注:安保理決議で定められた年間上限は50万バレル)。2か国の制裁委員会メンバーが、手続き的・方法論的な理由で報告内容に反対。
- **北朝鮮EEZ内での石油精製品の違法な「瀬取り」、北朝鮮領海内での貨物の違法な「瀬取り」、北朝鮮籍船舶による中国領海内での石炭の輸出は継続。**
- **北朝鮮による船舶(主に貨物船)の取得の著しい加速及びその手法に注目。**

(3)貿易、禁制品の取引、海外労働者

- 2022年の北朝鮮の貿易総額は2021年を越え、2020年も超えたと見られる。増加の主な理由は中朝間の鉄道貨物輸送の一部再開。ただし、**コロナ禍前の水準には達していない**(2022年1-9月期の貿易総額は2019年同期間の25%、2018年同期間の29%)。
- **北朝鮮からロシアへの弾薬輸出について、パネルは2022年11月18日に列車がロシアに停車し、次いで北朝鮮に停車したことを衛星写真で確認したが、当該列車が弾薬の運搬に使用されたとの主張については確認できていない。調査を継続。**
- 海外で報酬を得ている北朝鮮籍者に関する調査を継続。

(4)金融、サイバー

- キムスキー、ラザルス、アンダリエル等の偵察総局に所属するサイバー攻撃部隊は、違法な収益獲得や情報窃取のため攻撃を継続。
- 報道によれば、韓国当局は、**北朝鮮のサイバー攻撃部隊が2017年以降に全世界で約12億米ドル、2022年のみで6億3000万米ドルの暗号資産を窃取したと推計。**あるサイバーセキュリティ企業は、**北朝鮮が2022年に10億米ドル以上の暗号資産を窃取したと評価。**

(5)制裁の意図せざる人道への影響

- 北朝鮮の人道状況は引き続き悪化し、**国連制裁が意図せざる影響をもたらしたが、制裁の影響を他の要因と切り離すことは不可能。**